



森林ボランティア活動について

会長（フォレスター松寿 代表世話役） 永井 唯晴

前任の桑田会長の後を引き継ぎ、令和6年度から本協議会会長を務めることになりました永井唯晴です。桑田前会長は平成17年に協議会が設立されてから、長きにわたり兵庫県の森林ボランティア活動の発展に貢献をされました。改めまして、その功績に感謝申し上げる次第です。

本協議会の目的は「森林ボランティア活動の輪を社会全体に広げ深めていくことを目的として、もって県民総参加の森づくりに寄与することとする」で、現在65団体の森林ボランティア活動を通じてそれぞれの地域社会で素晴らしい成果を上げておられます。本協議会としては「毎年の総会・交流会」をはじめ、「ひょうご里山フェスタ」、「こうべ森の文化祭」への協力等、積極的に取り組んでおります。

森林ボランティア団体の共通の課題は大きく2つあると思います。

①メンバーの高齢化と参加者の減少です。森林ボランティア活動の実態を知らしめて、特に若い人たちにその大事さ・楽しさを知ってもらうきっかけ作りが急務と感じております。桑田前会長が常々「若い人からボランティア活動の入り口がわからない」という意見があり、若者に森づくりの楽しさを伝えたいと言われております。

②森林ボランティア活動で得た知識・技能・組織力を継承して生かし切れな



フォレスター松寿の植樹活動

い事です。具体的には小学生への自然体験教育や社会貢献活動で社会に還元することと思っています。



里山フェスタ2024で活動報告する永井会長

課題解決の事例としては、①昨年度発行した兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会の情報誌「森と人と。」と、今年度新たに発行した65団体の「活動地マップ」を活用することです。行政の出先機関や図書館に配布されて大きな反響がありました。ある団体からは、早速活動の申し込みがあり会員になった方があると聞いております。今後はSNSを活用してタイムリーな情報提供を目指していくよう検討しています。

②知識・技能の継承として、継続して実施している「森林ボランティア講座」があります。毎年9月から11月まで実施していますが、最近は若い人中心に毎年募集定員が一杯になるぐらい大盛況の状況です。

兵庫県の森林率（総面積に占める森林の率）は67%と言われています。「森は与えられるものじゃなくて、育てていくものだから」人の手が入った森は生き生きとしています。

先人が残してくれた森を守り続けて行くことは、森林ボランティア活動の醍醐味と思っています。日常の積み重ねがないと維持できない難しさと、だからこそ得られる達成感や充実感といった楽しみをもっと広く知ってもらいたいというのが願いです。

森づくりに貢献があった団体・個人が次の賞を受賞されました（敬称略）

- ・地域環境保全功労者 環境大臣表彰：桑田 結（ブナを植える会）
- ・女性のチャレンジ賞 特別部門賞（内閣府）：菅原 八重子（虫生川周辺の自然を守る会）
- ・環境保全功労者 知事表彰：よこおみち森もりの会
- ・
：ゆめほたるクラブ

この受賞を会員皆様とともに喜びたい

前会長（ブナを植える会 会長） 桑田 結

今回の受賞には、二つの意義があると思います。一つは、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会の皆様の活躍と、もう一つは「ブナを植える会」の永年の活動です。

はじめの兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会では、広い兵庫県の全域にわたり森林ボランティア団体の育成に努め、十分に成果をあげている事にあると思います。緑一杯の兵庫県の森林をボランティアの手で守り育てようとしている私たちの姿を見ていただいたと思います。

次に50年にわたる「ブナを植える会」の活動に与えられたものと思います。設立以来、ブナを但馬地方の十数か所、更に六甲山地などに植え続けました。当初のブナは立派に成長し、多くの木々は第2世を作り始めました。ブナは40年で花が咲き、数年ごとに結実する大変成育の難しい樹種です。

また、人生の後輩を育てる事業にも手を加えています。緑の少年団の育成集会を鉢伏高原で開き、滝川中学・高等学校インターアクトクラブの手助けを受けながら森林教育を行っています。香美町では町立小代小学校で紙芝居を使った環境学習を行い、地元住民の協力を得ながらブナの植樹と育樹を行っています。

今回の受賞のもととなった各地のボランティア団体の活動は、それぞれの特長を持ちながら地域住民を巻き込んで続けられています。まだまだ不十分なところがあると思いますが、会員、住民の協力により、今後も素晴らしい成果をあげるものと期待しています。



内閣府女性チャレンジ特別部門賞をいただいて

虫生川周辺の自然を守る会 会長 菅原 八重子

令和6年度の「内閣府女性チャレンジ特別部門賞」をいただきました。さまざまな分野でチャレンジする女性や、女性を支援する団体を表彰する内閣府の賞の一つです。兵庫県治山課から推薦をいただいたの表彰でした。

表彰式の会場は東京国際フォーラム。表彰式の出席は6名でした。まず控室に案内されました。初めてお会いした方々でしたが、すぐに打ち解けて自己紹介、名刺交換をし、緊張していたのが少しほぐれました。その後、加藤鮎子内閣府特命担当大臣の控室での顔合わせがあり、大臣から一人ひとりにお声をかけていただきました。

表彰式が始まり、大臣より表彰状と盾をいただきました。表彰式後に大臣との意見交換にも参加させていただきました。参加者は3名、打ち合わせもなく、一人2問ずつのお尋ねでした。どんな質問かなとドキドキ。私への1問目、今までシロバナウンゼンツツジの公開や環境体験学習で一番嬉しかったのは何ですかと。とっさに出てきたのが、初めての環境体験学習に来られた小学校3年生の男の子が、森の入口の59段の階段を降りて来た時「空気が綺麗」と一言。この言葉がほんとに嬉しかったし感激ですね。2問目もありましたが、こんな様子で表彰式と意見交換会が無事終わりました。控室に戻り色々活動のお話など和やかに過ごしました。スマホで集合写真を撮りラインで共有して東京国際フォーラムを後にしました。

表彰していただけたのも虫生の森のみなさんのおかげです。本当にありがとうございます。



会員団体の活動紹介

北雲雀きずきの森 きずな会・コミュニティひばり環境部会（宝塚市）

1. 沿革：元ゴルフ場と遊戯施設の跡地であったUR都市機構の開発用地28haを2006年に宝塚市が買取。コミュニティひばりは市と協議し、県『里山ふれあい森づくり事業』の申請を行い、整備が開始された。2010年『北雲雀きずきの森』が開園、環境部会の有志ボランティアによる『きずな会』を結成。



成長旺盛な雑草との闘い

2. 活動の概要：①会員数約30名で、活動は第1・3土曜、第2・4日曜、毎週水曜、午前9時～（6～9月は午前8時～）約2時間 ②内容は草刈り、樹木の間伐、危険木の伐採、植樹、植草、水路整備、ゴミ撤去など ③地域密着活動として年2回春と秋に市立長尾台小学校、雲雀丘学園中学校の環境学習支援を長年に渡り継続、毎月1回一般市民向けの自然観察会を実施、ガールスカウトや知的障害者施設に活動地を提供、毎年秋には周辺住民、特に家族連れを対象に自然を生かした様々なイベントを開催 ④一般社団法人兵庫県自然保護協会に委託し、セトウチサンショウウオと小型哺乳類の調査を委託している

3. インフラの充実：数年前から車椅子対応の歩道、トイレの整備、緊急車両の園内走行環境の整備、従来の駐車場に加え土・日・祝日に開放される園内駐車場の整備が進み利便性が向上

4. 課題：メンバー高齢化を見据え、2024年5月から2025年1月まで、次世代のボランティア人材の育成講座を開講、新しい人材の発掘活動を展開。学識者延べ13名を講師に招き、当公園に特化した里山の自然環境をテーマに座学と実習を交えた9回の講座を開催。本講座が今後の活動の持続性に繋げていけるか、保全整備の手法もより統一した方針に収束していけるかが問われている。



長尾台小学校・環境体験学習

神鋼かこがわ森の会（加古川市）

私達は、加古川市の公営施設である権現総合公園内の森林整備事業に取り組んでいます。

神戸製鋼加古川製鉄所を定年退職した人が主体となり、2014年に森林整備ボランティア活動団体を立ち上げ、11年が経過しています。



入道山展望広場の眺望とコバノミツバツツジ

事業内容は、公園内全域に原生するコバノミツバツツジの育成や桜等の植樹、入道山展望台広場の眺望の良好化のための作業、遊歩道の階段の保全工事をはじめとする整備作業、園内の散策者が気持ちよくリフレッシュするための手助けになる様な活動を行っています。

これからの活動は当公園を利用される地域住民の皆様方の心が和やかになるように環境を整備し、さらに多くの皆様が来園され、良好な憩いの場となる公園になることを願っています。

<当会の活動理念及び目標>

1. ボランティア活動を介して会員相互の親睦を図り、一人ひとりが森林整備を楽しみ・喜び、地域社会への貢献等の達成感を享受するとともに、健康維持を図り、人生の充実感を得ることを主目的とする。
2. 会員個々は、森林整備に関する技能・技術の向上に努め、その技量を後継者へ伝承し育成をはかる活動をする。
3. 加古川市の地域住民の皆様へ、リフレッシュの場所を提供する。

<今後の活動>

1. 現在、権現総合公園のリニューアル工事が進行中で、工事完了後にはコロナ前に開催していた地域住民との交流の場として「森と緑のふれあい会」を開催する方向で進めていきます。
2. 4月には、コバノミツバツツジが満開となり、他の花も綺麗に咲き乱れ、目を楽しませてくれることに併せ、園内の散策は新鮮な空気が満喫でき、心のリフレッシュになることを周辺地域の皆様へアピールしていきます。



入道山展望台行き階段修理工事

新会員紹介

西谷里山活用実行委員会 やまもり山里（宝塚市）

活動する場所の名前は「やまもりさんり」と言います。山の守り人という意味を込めて地域の方が名付けてくださりました。団体名も同じです。

宝塚市北部大原野地区に所在する宝塚新都市県有環境林の資源を見直し、守り、利活用をしていこうと 2016 年に地元の方が保全・整備活動を始めました。そして同年、この里山を見て心惹かれた方々や人と人が繋がって、鬱蒼としていたかつての里山にこつこつ手を入れ続けてきました。今では明るくなり希少な動植物たちが暮らせる場ともなっています。谷間に残る 30 余りの旧田や池、かつての里山の風景がここには残されており、懐かしさを感じられる方もいらっしゃいます。草花や生き物たちとの出会い、景色に心が安らぐと云ってくださる方も多いです。

活動は第 2・第 4 土曜日、第 3 水曜日に行っています。

作業は、湿地や遊歩道などの草刈り、池づくりや広がる竹の伐採、枯れた木々や倒木の処理など生態系に急激な変化を与えないよう配慮しながら整備を進めています。過去には季節の移ろいを感じながら旧暦と共にあるお茶会を楽しんだり、今では恒例となりました音楽会や植物、生き物の観察会を開催したり、また薪や竹、草木などの資源を使って火を焚き、西谷の旬の食材を味わう機会や染め物などを楽しむ機会を作ったりしています。地元の認定こども園の子どもたちの散歩コースでもあります。

今年「ひょうご里山フェスタ 2024」に関連して、9 月に地元の宝塚市立西谷小・中学校で里山の授業や整備体験を行いました。10 月に開催された里山フェスタのイベント「里山整備体験プログラム」では、当団体の活動地が会場となり森ボラ協の大先輩の方々に指導スタッフとして参加していただき、多くの方々ととても楽しい時間を過ごしました。



作業前にみんなで準備体操



観察会時にサワギキョウ群落を見学

慶野松原を美しくする会（南あわじ市）

慶野松原を美しくする会は、国の名勝地 慶野松原で 37 年松葉かきを行っている住民団体です。

南あわじ市にある慶野松原は、古くから人々に愛されてきた白砂青松の美しい松原です。約 5 万本の淡路黒松が約 2.5km に渡って生い茂り、白い砂浜と青い海のコントラストが素晴らしい景観を作り出しています。瀬戸内海の穏やかな波が打ち寄せる砂浜、天に向かって伸びる黒松、そして美しい夕焼け。これら全てが調和し、訪れる人を癒やしてくれます。

慶野松原は、単なる観光地ではなく、人々の暮らしと深く結びついた場所でもあります。

昔は家庭の燃料として松葉が使われ、松林の中は自然と美しく手入れされていました。しかし、昭和 30 年頃からガスが普及するようになり、次第に松葉は使われなくなりました。松葉が堆積し、草が生え、野犬の巣となった松原を以前のような美しい松原に戻そうと昭和 62 年より活動が始まりました。

約 40 年の活動が実を結び、今は下草がなく、松原の端から端まで歩ける美しい景観を維持することができています。松と共生するキノコ「松露（しょうろ）」も見られるようになりました。この美しい松原を後の世代に残せるように引き続き取り組んでいきます。



人力で松葉かき



機械も入れて松葉かき作業

山と人をつなぐ会（神戸市）

「江戸の俳人、与謝野蕪村が詠んだ景色です」、「平家物語をご存じでしょうか?」。須磨アルプスをご案内すると、必ず出てくる言葉です。眼下に広がる大阪湾や淡路島を眺めながら縦走できる須磨アルプスは、六甲山系最西端。景色だけでなく、様々な歴史の舞台でもある魅力的なエリアです。

本会は、2024年に設立。神戸市と協定を締結して、この須磨アルプスの登山道整備を行っています。

全国ご当地アルプスランキング（産経新聞、雑誌山と溪谷など）では、常に上位にあげられるエリアですが、一方で特定外来生物であるオオキンケイギクの侵入、植樹されたハリエンジュやオオバヤシャブシの立ち枯れ、倒木、極相林拡大による下層植生の衰退、植生の単純化など、全域で課題が散見されています。

これらの課題を解決するため、普段から山に親しんでいるメンバーとともに、立枯木の除去、照葉樹等の除伐、外来生物を中心とした草刈りなどに取り組んでいます。



ロープをかけて安全作業

海を眺めながら木を切る。なかなか味わえないかもしれない楽しい体験が、ここではできます。会員の中には、登山、クライミング、音楽に造詣がある者のほか、労働安全衛生規則に設けられたチェーンソーによる伐木等特別教育を修了している者もいるため、相互で研鑽しながら活動しています。



登山道整備

活動の信条は安全第一。そして、須磨アルプスを訪れる登山者が、「手入れされている素敵なお山だな」「また訪れたいな」、と思える場所にする。そのためには、活動しているメンバーが楽しいと思える場を作り続けること。これらを胸に、笑いながら、真剣に、活動していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

保久良ウグイスカグラ（神戸市）

2024年7月末、正式に六甲山系グリーンベルト整備事業の一環として六甲砂防事務所から「森の世話人」の承認を受け、神戸市東灘区の保久良神社から金鳥山への登山道沿いで活動をしています。また、9月に「兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会」の一員として登録していただいたばかりの団体です。

名前の由来は、活動地に根付いた「ウグイスカグラ」を大切に育てていきたいとの思いと、花言葉「明日への希望・未来を見つめる」にこの場所から未来へと進んで行こうという思いが重なったために名付けました。



当団体活動地の看板付近

以前、ハイカーとして六甲の山道を歩いていると『ボランティア活動中』という幟をよく目にしました。その都度「こうやって山の整備をしてくれる人がいるから、楽しく山歩きが出来ているのだ。感謝。」と思っていました。そして、いつの間にか手に道具を持ち森林ボランティア活動を始めていました。

最初は、「こうべ森の学校」に参加して道具の扱い方を習いました。その後「東お多福山草原保全・再生研究会」や「ブナを植える会」等で多くの事を学ばせていただき、また森林ボランティア講座の初級&リーダー両編の受講を経た結果、これからも森林ボランティア活動を続けていくと決め、会を立上げ活動する事としました。今後も「楽しく山と関わり続けていきたい」と考えております。



下刈り作業風景

まだ活動は3回しか実施しておりませんが、季節ごとに花が咲き、登山道を通る人々の印象に残る場所になり、また誰かが私たちの様に「山の活動をやってみようかな」と思ってもらえれば・・・そんな嬉しいことが起きる事をめざします。

森林ボランティア講座が開催されました

今年度の兵庫県主催の森林ボランティア講座は、9月16日(月・祝)～11月30日(土)の間に、例年どおり入門編4日間、リーダー入門編6日間の日程で開催され、それぞれ51名、14名が修了されました。入門編、リーダー入門編を修了されたお二人から寄稿いただきました。

森林ボランティア講座・入門編受講を終えて

ほくら～ととや森の世話人倶楽部（ほくらぐる一ぷ） 川淵 比佐夫

■動機

2023年9月 定年を機に地元地域に恩返しをしたい気持ちから、保久良神社の暮部宮司から「ほくらぐる一ぷ」の代表者を紹介され、神戸市東灘区岡本の六甲背山でボランティア活動の一步を踏み出しました。

■令和6年（2024年）度森林ボランティア講座について

9月16日～11月30日まで計4回の座学（2～3時間）・実技（約3時間）で累計約24時間の講座を受講させていただきました。

兵庫県立大学 服部名誉教授による「最先端の里山管理」からスタートし、兵庫県の森林について過去・現代そしてありたい未来をご教示いただきました。

また、実技研修については「ひょうご森の倶楽部」の方々から10班（約70名）の受講者が、森の実態・危険性・安全管理・安全対策など、準備・順序・手順などの指導を受けました。特に第3回人工林間伐での手鋸・ロープによる伐倒作業は非常に危険を伴い、また体力の限界に達する作業から、安全の重要性を強く感じる事となりました。

■今後のボランティア活動の考え

兵庫県のボランティア活動の人員・人材不足状況から、来年のリーダー入門編への参加呼びかけがありましたが、継続雇用定年の65歳までは1回/月ほくらぐる一ぷの下草刈り中心で活動を行いたいと考えている状況です。よって、ぐる一ぷや倶楽部の活動では下草刈りが大半であり、安全対策を習熟する為にも刈払機の安全講習を受講する必要性を感じています。

今回、本講座の機会をいただいたぐる一ぷの代表者並びに受講に際してご指導いただきました関係者の方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



人工林間伐実習 ロープを持つ白ズボンが川淵さん

森林ボランティア講座・リーダー入門編を受講しての雑感

よこおみち森もりの会 村上 功成

この度、標記講座のリーダー入門編に参加させていただきました。トータル6回の講座（講義・実習）があり、気候が当初の夏（気温32度）から最終の冬（気温6度）と、今年の気候変化を顕著に表していました。4年前の入門編に続く受講で、改めて森林ボランティア活動の奥深さ、広さ、難しさのほか、特に今回はリーダー編の「リーダーとはどうあるべきか」に特化された内容であったためにその必要性・重要性などを否応なく考えさせられたものとなりました。関係者の力量や熱量を否応に感じさせられました。

特に印象深かったのは「森林ボランティアリーダー像」の中の「森林ボランティア活動とPM理論」で、その理論を唱えられた世界的に有名な三隅二不二氏の考えにはひどく納得、敬服させられました。この考え方は世の中の生き方にも通じるものとも思えます。実際、自分に当てはめてみるとpm型から必死に成長しようとする過程かなと感じ、一日も早くPM型になれるようにと日々努めなければならないと痛感しました。

今回の講座で得た経験や知識などは今後の活動にも大いに活かしていきたいと思っています。誠に記憶に残る講習となりました。

最後に、今回の講座にご尽力いただきました主催者の方々を始め、バックアップされたひょうご森の倶楽部の方々に改めて感謝を申し上げます。



実習で植栽したクヌギ苗と村上さん

※PM理論についてはネットで「PM理論」を検索してください（事務局）。

森ボラ協として、イベントに出展しました

ひょうご里山フェスタ 2024

2024年11月3日（祝・日）に宝塚市立西谷中学校で『未来へ守りつなぐ私たちの TAKARA 里山』をテーマに、森づくり普及啓発全県イベント「ひょうご里山フェスタ 2024」が開催され、例年どおり当協議会も式典における活動報告並びに展示・体験ブースに出展しました。



里山フェスタ 森ボラ協ブース

式典では、会員団体の幟（のぼり）で彩ったステージにて、永井会長が森林ボランティア活動について力強く報告をしました。展示・体験ブースでは、阪神地区の会員団体を中心とした対応で樹名板づくりなどを催し、多くの子ども連れの家族でにぎわいました。

里山フェスタは、里山を守り育てる意識醸成の場ですので、森ボラ協が安全指導役を務め、森へと誘う恒例の「里山林整備体験プログラム」は、柱となる企画です。今年度は、10月26日（土）にプレイベントとして「西谷里山活用実行委員会 やまもり山里」活動地（P4参照）で、ソヨゴなどの除伐

を一般の参加者に体験していただき、「やまもり山里」のメンバーのほか、やはり阪神地区の会員団体が中心となって体験をサポートしました。

プレイベント当日は薪の使用体験も企画され、「やまもり山里」の協力のもと、羽釜で地元のお米を炊飯。炊きあがり、蓋を開け、白い湯気と共に参加者から満面の笑みがあふれていました。

2025年度はたつの市で開催される予定です。西播磨地域の皆様、ご協力よろしくお願いします。



プレイベント 里山整備体験

こうべ森の文化祭 2024

2024年10月27日（日）に神戸市&六甲山の仲間たち主催の「こうべ森の文化祭 2024」、サブタイトル～自然と「ふれる」・「あそぶ」・「まなぶ」～が再度公園で開催されました。

当協議会も活動や森林ボランティア講座の紹介、親子で楽しめる六甲山の間伐竹材で「須磨の立体ぶんぶんごま作り」ワークショップなどをテントブース出展し、六甲山系の神戸地区で活動する3団体14名がスタッフとして参加し、「緑の募金」も募りました。

ご存じかと思いますが、禿山化の進行著しかった六甲山地の緑を再生する最初の植林事業が本多静六博士の指導の基に明治35年（1902年）にこの再度山で始まったのです。この植林から100周年を記念して2002年にスタートしたのが「こうべ森の文化祭」イベントです。また、2007年2月に「再度公園・再度山永久植生保存地・神戸外国人墓地」の名称で、都市公園としては初めて国の名勝に指定された事は案外知られていないようです。

今年は昨年から新たに参加された「神戸登山プロジェクト」や「六甲山の各登山会」等々の出展参加団体も増えて30テントの出展者&来場者で大賑わいでした。後日主催者の発表では、昨年度から1.5倍増の約3,000人の来場者があったそうです。



森の文化祭 森ボラ協ブース

こすべ*2024 BE ROKKO
森の文化祭 クイズラリー

(4)兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会

問題：日本の森林率(国土面積に占める森林面積の割合)

は66%ですが、

①世界の平均森林率は〇〇%？
②兵庫県の森林率は〇〇%？
③神戸市の森林率は〇〇%？

お蔭さまで、我々のテントブースにも沢山の子ども連れご家族が楽しいぶんぶんごま作りを目当てに立ち寄っていただき、景品付クイズラリーにも熱心に取り組んでいただきました。

当協議会としては、森林の大切さを知って貰いたいとの思いから森林率に関するクイズを出して、森林に対する認識を少しは高めていただけたものと自負しております。

みなさんもこの三つの設問に答えられますでしょうか？（問題②の答えはこの会報P1にあります。）

「活動地マップ」を発行しました（2024年10月）

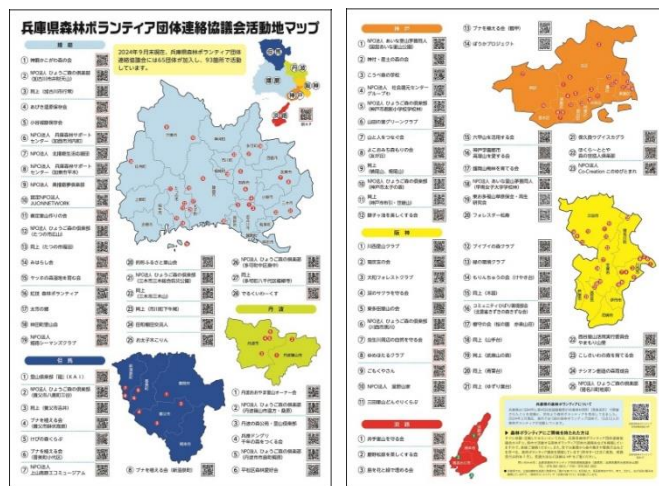
この度、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会は会員団体の皆様の活動地を表示した活動地マップを発行しました。本マップは令和5年度に発行した当協議会広報誌「森と人と。」に続く広報ツールとして、会員団体の活動地を分かりやすく示すことを目的に制作しました。

「森と人と。」を読まれた方をはじめ、森林ボランティア活動に興味を持たれた方が、参加する団体（活動地）を検討する際の参考として、また会員団体の皆様が会員募集をする際の資料として活用いただくことを期待しています。

（追加配布も可能ですので、ご入用の団体は事務局にご連絡ください。）

※PDF版については、兵庫県ホームページ（右のQRコードまたは下記URL）からダウンロード可能です。

（<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk21/documents/borakyou-map.pdf>）



緑の募金へのご協力をお願いします！

公益社団法人兵庫県緑化推進協会

森と緑は、二酸化炭素の吸収や水源のかん養などの働きを通じ、私たちの暮らしに欠かせない恵みをもたらしてくれています。このかけがえのない森と緑を守り育てていくため、公益社団法人兵庫県緑化推進協会では、緑の募金へのご協力をお願いしています。

なお、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会からの2024年1月～12月の募金額は¥170,325-でした。

緑の募金へのご協力方法

1 金融機関からのお振込み

①郵便局（手数料不要）

専用の払込用紙がありますので、(公社)兵庫県緑化推進協会にご連絡ください。→電話 078-341-4070

②銀行（手数料必要）

次の口座へのお振り込みをお願いします。

三井住友銀行 兵庫県庁出張所 普通 3198438

公益社団法人兵庫県緑化推進協会

2 キャッシュレス募金

ソフトバンクの「つながる募金」からキャッシュレスでもご協力いただけます。



募金のページ QRコード



事務局から会員へのお知らせ

■「活動地マップ」のほか、「森と人と。」、「会員プロフィール集」、会報バックナンバーもダウンロードしていただけます。広報等にご活用ください。

https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk21/af15_000000007.html

■当協議会の活動は構成団体のご協力と年会費で運営しています。未納なきようお願いいたします。

■メールで助成金やセミナーなどの情報提供をしています。

未登録の団体で、希望される場合は以下のメールアドレスまでご連絡ください。

（担当：治山課 森づくり普及班 亀岡）

chisanka@pref.hyogo.lg.jp



事務局 兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

兵庫県 農林水産部 治山課内

TEL 078-362-3613

FAX 078-362-3952